

まち・ひと・しごと創生総合戦略 推進事業KPI評価結果

基本目標 1 東日本大震災からの復興まちづくりを早急かつ着実に進める

No.	重要業績評価指標 (KPI)	H29実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	質問・指摘事項に対する回答・対応	
			実績評価	改善点 工夫点	総合評価			
1	新市街地整備事業完成度	100%	100.0%	◎	◎	A	<p>①新聞等によると被災者が入らずに残っている土地もだいぶあるという話だが、実際にはどの程度残っているのか。</p> <p>②市街地は予定よりも1年早く進んだことは素晴らしいことだが、半島部のことを考えるとなぜ早く進めるのか、半島部の整備と差が出ているのはなぜか。</p>	<p>①宅地の供給契約状況は、新市街地5地区で戸建ての宅地が1,360区画ありますが、30年5月末現在で申込率100%という状況にあります。ただし、補償契約金がまだ入金されない、自己資金の資金繰りがまだできていないなど様々な事情があって現地着手されていないところもありますが、新市街地については空き区画はない状況です。</p> <p>②新市街地については、水田等を被災市街地区画整理事業により整備した区域を被災再建者等に提供をしましたが、半島沿岸部については、移転先地の選定及び団地の区画数など、再建者の合意形成より団地の位置や規模を確定した後の工事着手となったこと、また、新市街地と比べ団地数が多いことから相対的に期間を要したものです。</p>
2	防災集団移転促進事業完成度	100%	100.0%	◎	◎	A	<p>①新聞等によると被災者が入らずに残っている土地もだいぶあるという話だが、実際にはどの程度残っているのか。</p> <p>②沿岸部は100坪の賃借料を30年間無償とのことだが、沿岸部以外の地域とかなり差が出ているという状況がある。それについての考え方、今後沿岸部以外の地域の方々にしてはどうするのか。</p> <p>③借地料無償の期間が10年と30年の違いは何か。借地料は地域によって差があり、半島部は安いということはある。それで10年と30年という差が生まれたのか。</p> <p>④計画がコロコロ変わり、半島部の事業について説明不足を感じる。30年無償にしたことを住民にわかりやすく説明したとは思えない。地区によって違いがあるのかもしれないが、市独自の支援をもっと前面に押し出すことも必要かもしれない。</p>	<p>①空き区画については、612区画の戸建ての用地を造成していますが、今現在、89区画の空きが発生しています。46地区65団地を整備しており、地区からの再建者がいない場合は、一般の方々の登録を開始しています。</p> <p>②半島部は定期借地のうち30年は借地料を無償としています。ただし、途中で分譲を望む方がいる場合は分譲も可能です。事業を行っている方は自己資産にするということ希望する方もいます。市街地の場合は、10年間200坪までの借地料を軽減させていただいています。</p> <p>③もともと半島部の定住人口が少ないということ、震災後人口が内陸部に移動していること等を踏まえ、定住策として借地料の無償期間を30年とし、市街地よりも長く設定することとなりました。また、もともとの価格、利便性を考慮しました。</p> <p>④被災再建者の支援策については、各地区説明会や市報などを通じて周知を図ってきたところであり、先般、最終的な再建に係る意向調査を実施いたしました。調査により再建方法が決まっていなかった方に対しては、支援策を丁寧に説明すると同時に、再建済の方については、適宜、状況を見ながら、支援制度の内容について、周知して参りたいと考えています。</p>
3	土地区画整理事業完成度 既成市街地 住居系	100%	75.8%	○	○	B	<p>①事業途中という状況だが、中心市街地がまだまだ大きく遅れているように見えることから、復興事業そのものが遅れているように見える。川開き祭りの時など、復興が遅れているというようなイメージをもたれてしまうと思うが、どのように考えているのか。</p>	<p>①既成市街地の区画整理事業は5地区あります。既に下釜第一、中央一丁目地区は概成しており、今は換地処分等の手続きを行っているところです。新門脇地区は来月工事の概成を予定しており、7月1日現在で98%の進捗となっています。湊東は78%、湊北では83%という進捗となっています。</p> <p>復興が遅れているイメージの払拭方法については、市報等で完成後のイメージをPRしたり、その場所に将来の様子が見えるような表示をするなどしてまいりたいと思います。</p>
4	復興公営住宅完成度	100%	95.8%	◎	○	A	<p>①復興住宅はまだ足りないのか。広瀬地区にできた住宅は3部屋空いているということなので、他にも空いているところがあると思う。</p> <p>②完成を目指し予定通りに進んでいることは素晴らしいが、空き部屋がないのか。また今後賃料が上がった場合についての住民説明がきちんとされているのか。</p> <p>○一昨年来、会議上で整備戸数について質問が出ていたが、その時の回答と今回の担当評価との間に官民の違いを感じた。</p>	<p>①事前登録状況及び応急仮設住宅入居者を対象とした特定延長届出書の再建意向の確認等により、復興公営住宅の整備戸数を4,456戸と確定し、現在整備を進めている2住宅40戸をもって、必要戸数を確保できる見込みとなっております。</p> <p>②再建方法の変更及び退去により空き住戸が発生していますが、未だ仮設住宅等で暮らしている方がいることから、入居者の随時募集をしています。また、家賃低減事業については、パンフレットやホームページ、相談窓口等で説明しており、十分周知が図られていると考えております。</p>
5	市街地再開発事業完成度	100%	100.0%					

重要業績評価指標(KPI)毎の委員評価等一覧

No.	重要業績評価指標 (KPI)	H29実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	質問・指摘事項に対する回答・対応	
			実績評価	改善点 工夫点	総合評価			
6	観光交流施設の 来場者数	1,000,000 人/年	292,790 人/年	○	○	B	<p>①施設の完成当初は成功事例として取り上げられていた施設が、その後地域のお荷物になっている例は少なからず存在する。これだけ目標値と実績に乖離がある以上、早い段階で原因を分析すべきである。アクセス動線の整備や周辺施設との連携というレベルでは、目標達成は難しい数字なのではないか。日本全国にあるハコモノ施設の失敗事例からそうならないよう学ぶべきだと思う。1年間の数字ではないとはいえ、オープン年度は本来来場者は多くなるはずなので、冷静に分析してほしい。</p> <p>②かわまち立体駐車場の料金について、一過性の対応でとりあえずのところは解決しているが、今後アクセス等も含め実際に利用する民間の意見も聞いてほしい。</p> <p>③南浜の祈念公園から、元気いちばへ大型バスが門脇を通れるようになると流れが変わるように思う。それぞれの施設が完成した時に回遊できたら良いと思う。</p> <p>○元気いちばを復興住宅の方も利用できるようにとお願いしていた。野菜や魚を扱っていただき感謝している。観光ボランティアの方々が駅前案内しており、とても頑張っていると思う。</p>	<p>①観光交流施設の来場者数の目標設定値は、「石巻市観光交流施設整備計画」に基づき、設定していますが、目標との乖離は、拠点自体が整備途上によるものです。当エリアにはそのポテンシャルを十分に有しているものと思われることから、今後も観光交流施設の利用者数については、毎年度検証し、関係機関と調整を図りながら、目標達成に向けた策を講じてまいりたいと考えております。</p> <p>②石巻市かわまち立体駐車場の料金については、周辺の民間駐車場への影響を聞き取り調査した上で、期間を限定した料金設定としております。今後も売上への影響等についてさらに詳しく調査を行う予定としており、慎重に検討してまいりたいと考えております。</p> <p>③石巻市南浜津波復興祈念公園が完成となれば、観光ルートとして南浜町から中心市街地への大型バスの流入が見込まれ、交流人口の増加が期待できることから、両施設への来訪者の回遊性が高まるよう検討してまいります。</p>
7	中心市街地定住 人口	3,812人	2,967人	○	○	B	<p>①駅前集まる所が無くなって不便になった。交通機関の乗り継ぎの間に入って休めるところがない。駅前が明るくなるようになんとかしてほしい。</p> <p>②年度ごとの状況に応じた改善措置も必要だが、もっと中長期にみる事業も必要なのではないか。</p> <p>③中心市街地の定住人口が増えないのには、スーパーのような量販店がなく日常生活の買物の楽しみがなく、不便なことも原因の一つではないか。</p>	<p>①③駅前の利便性につきましては、現在は総務部と連携して中心市街地の賑わいの創出や市民生活の利便性確保のため、市役所本庁舎1階への商業施設の誘致に取り組んでおります。</p> <p>②安全・安心な住環境づくりによる定住人口の確保という中長期的な視点・方針を基本として実施してまいります。</p>
8	施設（萬画館及 び観光交流施設） 利用者数	1,241,200 人/年	391,831 人/年	○	○	B	<p>①連携した取組を考えるためにも、情報を早く出した方が良いと思う。かわまち交流センターの外観があまりにも周辺と調和しておらず驚いた。これで連携できるのか。</p> <p>②【No.6①と同様】施設の完成当初は、成功事例として取り上げられていた施設がその後地域のお荷物になっている例は少なからず存在する。これだけ目標値と実績に乖離がある以上、早い段階で原因を分析すべきである。アクセス動線の整備や周辺施設との連携というレベルでは、目標達成は難しい数字なのではないか。日本全国にあるハコモノ施設の失敗事例からそうならないよう学ぶべきだと思う。1年間の数字ではないとはいえ、オープン年度は本来来場者は多くなるはずなので、冷静に分析してほしい。</p>	<p>①かわまち交流センターの外観や構造等につきましては、有識者を交え議論を重ねて検討したものですので、御理解願います。</p> <p>②施設の利用者数の最新値は基準値を大きく下回っておりますが、これは「いしのまき元気いちば」の利用者数の値がオープンした6月30日から12月末までのもので年間を通した数値ではないことや、指標である施設利用者数を測定するカウンターの設置が平成30年度になったため今回はレジ通過者数の値としているためです。平成30年度にはレジ通過者数ではなく施設利用者数が計測できるうえ、「かわまち交流センター」や交通広場等の周辺施設の整備による相乗効果により、更なる利用者数の増加が見込まれます。なお、レジ通過者数「212,285人」に「2（レジ通過者数の同行者数を求める係数として）」と「12/5（1年分の値に修正）」を乗ずると、「1,018,968人」となり、推計値ではありますが目標値に非常に近い値を示しております。</p>
9	中心市街地歩行者 等通行者数	16,950人	13,612人	○	○	B	<p>①中心市街地はどこなのか。昔市内と呼んでいた場所はない。車社会になったことから、蛇田地区を指しているのか。</p> <p>②車移動の場合は、ほとんどが目的地へピンで移動する。石巻は車移動が根強いため、歩行者数で安全・安心なまちづくりがなされるかの把握になるのか。</p> <p>○昨年この時期に比べると、立町の歩行者が増えているように思われる。特に団体の観光客や外国の方を見かける。</p>	<p>①石巻市中心市街地活性化基本計画では、JR石巻駅前周辺から中瀬公園にかけてのおよそ56.4haを中心市街地として位置付けております。</p> <p>②本市の中心市街地活性化基本計画は、歩いて暮らせるコンパクトな街づくりをコンセプトのひとつとしており、石ノ森萬画館やいしのまき元気いちば等の施設から街なかへの回遊を促す事業を進めているため、歩行者・自転車通行量は中心市街地の賑わいを測る指標として適切なものと考えております。</p>

重要業績評価指標(KPI)毎の委員評価等一覧

No.	重要業績評価指標 (KPI)	H29実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	質問・指摘事項に対する回答・対応	
			実績評価	改善点 工夫点	総合評価			
10	半島部における拠点エリアの整備事業完成率	100%	56.6%	○	○	B	<p>①拠点エリアの完成が32年2月というところかなり復興予算も尽きてくると思うが、国への要請等はどういう状況なのか。</p> <p>②鮎川、雄勝で上物施設整備の完成を来年8月を目指しているが、予定工程についてお教えいただきたい。</p> <p>③建物は今後できると思うが、その後はどうなのか。それぞれの地区の問題であると思うが、多額の投資をしたらどのような利益が出るのか。</p>	<p>①鮎川、雄勝中心部地区では観光物産交流施設の整備を先行して行います。また、北上にっこり地区は32年2月の完成を目指しております。財源確保については、復興交付金事業となります。観光物産交流施設について一定の財源が確保され、今年度から上物施設の工事に入ります。災害復旧事業についても、各種手続きを積み重ねており、今年度中に、災害査定を受けて3地区とも工事に入る予定であり、一定の財源はいずれも確保されています。</p> <p>②鮎川地区の観光物産交流施設は、9月議会承認後に建築工事に入り、平成31年8月の完成、おしかホエールランドは今年度国の災害査定を受け、平成31年度中の完成を目指します。また、雄勝中心部地区の観光物産交流施設は、9月議会承認後に建築工事に入り、平成31年9月の完成、硯伝統産業会館については今年度国の災害査定を受け、平成31年度中の完成を目指します。なお、鮎川地区については環境省のビジターセンターの建築工事も今年度同時進行することから、各建築工事と調整しながら、進めてまいります。</p> <p>③鮎川地区、雄勝中心部地区に観光物産交流施設等の完成により、交流人口の増加が望むことができ、各地域のまちの賑わいを取り戻すことができると考えます。完成以降、各地域のまちの賑わいを維持できるよう、官民一体となって各種イベント等を開催していけるよう、進めてまいります。</p>
11	市民バス等によるネットワーク充足率	100%	100%	○	○	B	<p>①ネットワーク充足率100%になっているが、利用する側からすれば利用しにくいという話もよく聞く。ネットワークといっても、のぞみ野地区にもバスが入っているが、1本道でやられているので、のぞみ野でバスに乗って街に来るのに1時間かかる状況にある。利便性を高められないか。</p> <p>②障害者や介護が必要な交通弱者に対する交通の利便性について、どのような調査をして、現在どのような対策がとられているか。29年度の事業費は1億7千万円程度だが、交通弱者に対する支援ではもう少し予算がかかると予想されるが、予算措置等の対応策はどのように考えているか。</p> <p>③市のバスは大きなバスで巡回していると思うが、稲井号みたいな、地域住民に寄り添った形のかなり利便性が高いバスもある。河北地区は住民が多い地区ではないので、お年を召した方も多し。ぜひ住民の方にアンケートをとって、どういった交通手段があれば利便性が高まるか、意見を取り入れてダイヤを考えていただければと思う。</p> <p>④石巻駅から広瀨まで1時間、蛇田から広瀨まで40分かかる。間にしらさぎ台、北村等いろいろ回りすぎのように感じる。乗車時間が長いと、利用者が少ないように思う。</p> <p>⑤ネットワーク充足率と住民の満足度には相当の隔たりがないのか。調査するべきではないか。</p> <p>⑥復興により人の流れも変わっている中、ネットワークはすごく大事であると思う。沿岸部の住民の足をなくすことなくまわすためには、住民と行政と運送会社の工夫が必要であると思う。</p>	<p>①バスには、住民バス、路線バス、広域路線、仮設路線があります。ネットワークについては、結節点を設け、乗り継ぎながら目的地に進むというネットワークを構築しています。1つの目的地に行くのに時間がかかるということもあることから、今後、骨格路線をどれにするか、広域路線等、いろいろな役割の路線を考えながら、最も効果的なダイヤを構築してまいります。</p> <p>②公共交通の立場から、福祉施策ということもあります。各課と連携を図りながら、交通弱者がより交通を使えるような施策について相談をしています。今回の事業費については、公共交通のネットワークの充足部分のみの記載であります。なお、福祉部門の交通弱者に対する施策として、タクシー券の配布を行っており、年間予算として5,000万円措置しています。</p> <p>③稲井号は地域住民で組織する地区運行協議会で運行しており、協議会で運行形態等を交通事業者と協議し運行しています。地域のニーズについては、路線バス、住民で組織される協議会で運営しているバス等もあるので、機会があれば協議会にも伝えていきます。</p> <p>④河南線（石巻営業所～河南総合支所）は、住宅地を含む広範囲をカバーして運行しており、経路が長くなることから乗車時間が長くなっています。しかし、公共交通ネットワークを充足させ、より多くの市民の移動手段確保のための路線であることから、今後も路線の維持に努めながら、効果的な運行経路について関係機関と相談してまいります。</p> <p>⑤交通ネットワークは、拠点となる交通結節点で各エリアを接続し、乗り継ぎながら目的地に向かうというネットワークを構築しているため、乗り継ぎによる利便性が低下する可能性もあります。住民の満足度については、バス利用に関する様々な要因（運行経路、運行ダイヤ、便数等）で検証する必要があると考えております。</p> <p>⑥復興事業の進展により居住エリアも変化しています。地域住民、交通事業者と協議をしながら効率的で利便性の高い公共交通ネットワークを構築してまいります。</p>
12	津波防災拠点整備事業完成率	100%	49%	○	○	B	意見なし	—
13	海岸保全施設整備事業完成率	40%	15%	○	○	B	<p>①災害復旧事業の進捗の遅れと連動しているとのことであるが、災害復旧事業はかなり遅れているのか。</p> <p>②防潮堤の整備にあたり、住民合意されていない地域（地区）はあるのか。 ○完成することがベストとは思わない。見直しを含む話し合いにより、再調査などを行っているのは評価できる。 ○個人的には10mの防潮堤は必要ないと思っているが、国が定めたことだから仕方ない。</p>	<p>①災害復旧事業の進捗の遅れと連動していることについて、災害復旧事業で実施している18漁港海岸のうち全地区を工事実施しており、5漁港海岸の防潮堤本体の工事完了を含め、復旧率は42%となっております。</p> <p>②防潮堤整備実施地区について住民合意を得ております。</p>
14	防災緑地整備事業完成率	100%	42.7%	○	○	B	意見なし	—

※青字は会議終了後に追加で御提出いただいた質問・意見及びその回答となります。

重要業績評価指標(KPI)毎の委員評価等一覧

No.	重要業績評価指標 (KPI)	H29実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	質問・指摘事項に対する回答・対応	
			実績評価	改善点工夫点	総合評価			
15	津波避難タワー整備、津波避難ビル指定件数	45件	38件	○	○	B	①タワーやビルを作った後の利用方法など、地域の方との情報共有が必要なのではないか。	①地域で行う防災訓練等でも施設を利用していただくなど、地域防災力の向上に努めてまいります。
16	旧北上川下流域における長期係留船舶	0隻	60隻	○	○	B	意見なし	—
17	空き家等の活用件数 (H27年度～H31年度累計)	15件	5件	◎	○	A	<p>①農業に携わる者として、後継者不足は問題視している。私が所属している農協青年部は、水稻、野菜をやっている若い担い手の集まりである。農業にちょっと興味があるという若い方からの問い合わせが市に来ると思うが、その際には、どのような作物を作りたいかなど、アドバイス等できると思うので、ぜひ青年部を活用していただきたい。</p> <p>②5件の利用状況はどのような状況か。どのように活用されているか。</p> <p>③シェアハウスの形態でやっているところが多いようだが、どういう契約、運営形態になっているか。予算的なもの、お金の流れはどのようになっているのか。</p> <p>④一時的な事業にならないのか。空き家の増加は進むと考えているのであれば、延々に資金を投入し続けられるものでもないので、移住促進や担い手育成を32年度以降も継続するならば別だが、活用するための事業そのものも一過性の事業ではないもので検討すべきではないか。</p> <p>⑤行政主導も必要だが、各地区での住民の関心が薄いのではないか。</p>	<p>①北上、桃生地区に昨年度担い手センターを整備し、今年度から施設の管理と運営をインノマキ・ファームに委託し、SNSや農業人フェア等で新たな担い手を募集し、そちらを通して紹介していただく予定なので、その時はよろしくお願ひしたいと考えております。移住交流として移住コンシェルジュという取組も行っています。先ほどいただいた提案は移住コンシェルジュに伝えていきたいと思ひます。</p> <p>②担い手センターということで、農林課と水産課で整備しており、短期・長期の研修に使っています。今後地区に定住するというこゝで、水産業については半島部の定住策ということを考えて実施していくこととなっています。農業については北上と桃生地区に2件整備しました。今年の5月下旬にオープンしたばかりで、実績は0となっております。今後ホームページ等を活用して周知していきたいです。移住対策としての空家改修については、千石町に2棟を整備し、利用者の報告はまだ受けていません。今後は移住を考える方のシェアハウスとして活用していきたいと思ひます。</p> <p>③所有者と市が移住事業を委託しているコンソーシアム ハグクミが契約しています。ハグクミが行っている移住交流事業の中で空き家活用事業を行っており、空き家の改修をしています。改修した空き家は、移住セミナーに参加するための一時滞在のために活用し、その利用料については、ハグクミと検討していきたいと考えております。利用料の内訳としては、一時滞在期間における水道や電気の使用料程度と考えております。</p> <p>④新たな利活用の方法について、他市町村の動向等も注視しながら、今後も継続して検討してまいります。</p> <p>⑤空き家の利活用事業の実施にあたっては、当該地域の住民に対し十分な周知を行います。また、市民の空き家に関する関心を高め、空き家の発生抑制や、利活用、適正な管理を促すため、市報やHP等で広く周知を図ってまいります。</p>

基本目標2 人材を育成し安定した雇用を創出する

No.	重要業績評価指標 (KPI)	H29実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	質問・指摘事項に対する回答・対応	
			実績評価	改善点工夫点	総合評価			
18	看護師、保健師、社会福祉の専門的職業の有効求人倍率 (常用フルタイム、H31年3月)	1.50以下	3.70	○	○	B	<p>①人材確保、安定した雇用の確保をしながら若い人たちが石巻に定着するという事は重要な課題である。我々が直面する、分野を問わない大きな課題である。奨学金の返還や助成金については、卒業した学生にとって魅力的な制度である。日本学生支援機構に情報を流しているというのは非常に良い。厳しい家庭事情の中でも学んでいけるという、非常に意味がある事業である。ぜひがんばっていただきたい。</p> <p>②長期展望について見えない。</p>	<p>①当初は対象者180人という目標を設定し、年間60人、3年間という計画を立て取組んできました。やってみると、今後もニーズが期待できるのではないかとということもあり、3年間の期間だけで終わらせていいのかということを考えています。継続的に実施していくためには、事業の手法の検討を含めて、もう少し練り直すこともあるのではないかと考えています。</p> <p>②看護師、社会福祉士をはじめとする専門職が不足しているのは、医療機関等における専門職の人員配置基準の改定、介護職の低賃金、保育職の非正規雇用の拡大、高齢者の増加など、様々な要因が重なっていると思われます。その結果、石巻管内の福祉、介護関連職種の有効求人倍率は3倍超で高止まりしています。また、類似の事業が全国で次々にスタートし始めている情勢に鑑み、本市においても事業継続が望ましいと考えられますが、当初計画である180人達成後の平成33年度以降の事業継続の是非や効果的な事業手法については、平成31年度中に結論を出すこととしています。</p>
19	地域医療福祉セミナー参加者数	50人/年	0人/年	×	○	C	<p>①医療福祉セミナーにおける事業費はついていないのか。どの程度の予算か。</p> <p>②28年度の評価実績でも、医師が予定どおり確保できずと書いていて、今回も同じような理由で、目標を達成できていない。2年とも同じ理由というのはいかがなものか。</p> <p>③実績がなく、やりたいのかやめたいのかわからない。市立病院の医師等の協力を得て実施を考えているようだが、難しいのであれば、個人的にはしっかり予算をつけて進めるべき事業であると思う。</p> <p>④昨年と同じような担当課評価であることが問題である。カリキュラムの見直し等の検討という段階で本当に大丈夫なのか。</p> <p>⑤基本目標に対してKPIが、この指数で良いのか疑問である。市立病院で受入れている実習生の人数等を分野別に統計し、うち、地元就職者数がどれくらいいるか調査してはどうか。</p> <p>○地域でサロンを行っている人達に保健師の話や歯科の話など職員ではないけど、皆が勉強していたら、包括とはそんな感じ。</p>	<p>①地域包括ケア推進協議会があり、協議会の予算で28年度以前に実施していました。金額は10万円程度であり、講師の先生を呼んだり、旅費、消耗品等の分であります。</p> <p>②病院局ともこの件に関しては協議を重ねており、今後このようなことがないように、前向きに進めたいという思いで、実現可能性を見据えて、カリキュラムを見直し1日間の研修とする方向で検討することとしています。</p> <p>③市立病院の医師がセミナーに関わるのが困難な状況も想定されるため、今後は外部講師を招いたセミナーの実施を含めた予算措置を検討することとしたい。</p> <p>④現状のカリキュラムでは実施が難しいため見直しを行い、その中で事業の有効性や効果を検証したい。</p> <p>⑤セミナーの目的である本地域への医療や福祉の若手人材の誘致・確保に向けた手法の一つとして参考としたい。</p>
20	石巻地区勤労者福祉サービスセンター会員数	3,500人	2,702人	○	×	C	<p>①会員の減少というのは、会社が倒産しているというのが多いのかなと思う。事業費1,500万円をかけて事業を実施しているようだが、今後魅力あるものにしていくために増額してはいかがか。</p> <p>②全員がHPを見るわけではないので、何でもHPで周知したとは言わないでほしい。</p> <p>③そろそろ自立した事業になっても良いのではないかと。自立性が見込めないのであれば、事業そのものを考えるべきではないか。</p> <p>④もう一工夫あっても良いかと思う。</p> <p>⑤会員数が減少した要因としては、震災の影響だけとは限らないと思う。なぜかというところ、企画サービスの内容がマンネリ化しており、かわりばえしないことと、以前のようなマメな担当者ではなくなったのも原因ではないか。</p>	<p>①この補助金については石巻市と東松島市と女川町で出しているものです。各自治体との協議も必要なので、今後、協議を含め検討していきたいと考えております。</p> <p>②HP以外でのより効果的な周知方法について、勤労者福祉サービスセンターと協議・検討していきたいと考えております。</p> <p>③震災の影響を大きく受けた中小企業の雇用環境の改善を図っていくためには、行政の継続した支援による福利厚生事業を実施していく必要があると考えております。</p> <p>④⑤事業内容につきましては、先進地を参考にするなど、勤労者サービスセンターとより一層連携してまいりたいと考えておりますので、御理解願います。</p>
21	創業・第二創業件数 (H27年度～H31年度累計)	95件	21件	◎	○	A	<p>①創業後、創業した企業が継続しているか、伸びているか。それともやめているのか。どういった状況になっているのか。</p> <p>②28年度だけどうして実績が多いのか。</p> <p>③創業してそのまま営業できているのか。</p> <p>○創業継続のための工夫点など評価できる。</p>	<p>①創業支援事業者については、この事業によらず創業している方もいるので、創業者全体については把握できておりません。これまで、この事業による相談会や補助金等を活用して創業をしていくきっかけを作ることを重視していましたが、今後は創業後のフォローアップが非常に重要だと考えています。創業者の方の情報を頂戴しながら長く事業を続けられるような体制の支援を検討していきたいと思っております。</p> <p>②本市の認定創業支援事業計画における各種支援事業のうち、創業に関する相談及び創業支援セミナー受講をした者の半数以上が平成28年度に創業したため、実績値が増加した要因となっております。</p> <p>③創業後についても、各創業支援事業者等と連携して、適切な支援を行っておりますが、事情により創業を断念している場合もあります。</p>

重要業績評価指標(KPI)毎の委員評価等一覧

No.	重要業績評価指標 (KPI)		H29実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	質問・指摘事項に対する回答・対応
				実績評価	改善点工夫点	総合評価		
22	創業相談件数 (H27年度～ H31年度累 計)	200件	50件	◎	○	A	①相談件数よりも内容について解決策を提示し、その後についてどうなっているかが問題であると思う。	①相談については、創業に詳しい専門家である中小企業診断士などが相談員となり起業・経営全般に関する相談を実施しております。また、さらに専門的な場合は、金融や支援施策などの創業支援事業を実施している支援機関を紹介するとともに、創業の実現から創業後まで、相談した者へのハンズオン支援、フォローアップも行っております。
23	肉用牛産出額	11億5千万円	10億円	◎	○	A	意見なし	—
24	6次産業化事業 計画認定数 (H27年度～ H31年度累 計)	20件	1件	○	○	B	①6次産業化に取り組もうとしている事業が多くいるのであればこの事業は有効だが、そもそもその分母が少なくなっているのではないかと。そうだとすれば、今創業している方々への支援事業へ移行しつつ、事業は縮小して良いのではないかと。相談したい人は県にも窓口がある。 ②新商品の開発を積極的に進めてほしい。	①6次産業化の補助支援メニューは、総合化事業計画以外にも様々にあります。認定を受けなくても活用可能な支援について、その都度、事業者にあった制度を活用しています。そのため、6次産業化に取り組もうとしている事業者が減っているわけではありません。 ②新商品開発は、毎年、セミナー等を行いながら約30件程度の試作品、約15件程度の商品化につながっています。今後も新商品開発を積極的に進めてまいります。
25	農林水産業新規 就労者数 (H27年度～ H31年度累 計)	20人	12人	◎	○	A	①新規就労者数のカウントは、どの時点で新規就労者となるのか。 ②5名離職されているが、その理由はこういったものか。地域の閉鎖性という理由もあるか。 ③市内には外国人の研修生がかなりの人数が入っていると思うが、補助等はしていないか。 ④農業の実績が0なのはなぜか。この担い手育成、確保は全国的な問題であり、他自治体と同じような施策では、一過性の事業になる。北上地区のシェアハウスとはどこのことか。そのような施設があることを北上の農林業者も活用できるよう情報共有されているのか。 ○福祉との連携。	①年度で区切っており、29年度は12名が研修等で受けて、漁業者のもとで就労した数となっております。実際は研修等を積まない一人前の漁業者にならないということで、29年度中に新たな研修に入った方の人数です。ただし、研修生といっても、就労という形でお給料をいただいてやっています。 ②理由についてはさまざまです。人が合わなかったり、地域に馴染めなかったり、本人の希望で別の地区でやるということもあるので、一概に同じ理由ということではありません。最初に短期研修を受けてもらうなどマッチングを行いながら、すぐに離職しないように調整していますが、別の地区で漁業に取組みたい等、本人の意向で離職するということがあります。地域の閉鎖性といった部分をわかっていただいた上で入っていただいているため、理由としては多くないと考えています。 ③外国人の実習生については、大きく漁業と加工業者の区分があります。漁業については、以前は直接市でやっていたこともありましたが、延べ100名くらいインドネシア等から来ていただいている方がおります。水産加工については各々企業から管理団体に委託して入っています。全体の数としては石巻の管理団体で100名くらいです。ほかにもあるようなので実際はもっと多い人数が入っています。水産加工については民民のため、市のほうで補助は行っていません。漁業についても入管法の関係で市から直接補助ができなくなったので、市から補助は行っていません。 ④新規就農者を受け入れるためのシェアハウスについては、北上地区と桃生地区に平成29年度に担い手センターとして整備し、平成30年度から運用を開始していることから、平成29年度の実績が0となっております。北上地区のシェアハウスは、女川字要害地区の空き家を活用した施設で、一般社団法人イシノマキ・ファームが管理運営を行っております。一般社団法人イシノマキ・ファームが自主的に実施している短期研修事業と連携した、担い手育成のシステムを構築しているところです。
26	輸出増加数量 (平成26年 比)	50t増	18.4t	○	○	B	意見なし	—

重要業績評価指標(KPI)毎の委員評価等一覧

No.	重要業績評価指標 (KPI)		H29実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	質問・指摘事項に対する回答・対応
				実績評価	改善点工夫点	総合評価		
27	観光客入込数	3,000,000人/年	2,481,019人/年	○	○	B	<p>①30年9月にかわまち交流施設ができる。目標の観光客入込数を増やす理由として挙げており、観光客に配慮した施設ということだが、中身がなかなか伝わってこない。どのような施設になり、どの程度観光客が見込めるものなのか。</p> <p>②教育旅行の受け入れ推進について、石巻らしさを表に出しながら、周りとの競争に勝って受け入れることになると思うが、石巻らしさはどのように設定されているか。</p> <p>③着地型観光の個人についてどのように考えているか。</p> <p>④RAFがトランジットとなる本年、この数字を達成できるのか。225,000人にどれだけ近づけるか、そのためにどうするのか。</p> <p>⑤着地型。</p>	<p>①8月末の完成で、9月オープン予定となっています。実際にどういった方が利用するかについては、まずは観光客、元気いちばに来るお客さんに寄ってもらいたいと考えております。また、貸し館としての機能もあるので、NPO法人や町内会といった方々にも利用していただきたいです。非常に低額で利用できる施設になっています。またキッチンコーナーなど、いままでの公共施設とは違った目線で作られている部分もあります。</p> <p>観光の側面としては、かわまち公共施設は、観光の情報発信の拠点という位置づけであります。中心市街地だけではなく、牡鹿半島、雄勝等、他の地域に関する情報発信を行い、足を運んでもらえるようにしていきたいと考えております。萬画館や中瀬公園、かわまち公共施設の北側の広場、プロムナードなどを活用しながら、イベントを常時開催し観光客の誘致に努めてまいります。</p> <p>②2市1町のDMOで所管し、アクティブ・ラーニングプログラムという教育旅行ガイドブックを作成しています。震災伝承に伴う語り部ツアー、体験学習として漁業・農業体験、ブルーベリー狩り等、施設見学などを組み合わせたコースを設定しています。旅行会社や学校にガイドブックを持って行き、誘致を行っております。</p> <p>③DMOと連携しながら、石巻にどういった魅力があるのか、自然や施設を組み合わせながら旅行商品をつくっていきたくと考えております。サイクルツーリズムを推進しており、元気いちば、サンファン館等にレンタサイクルを設置し、今後拡大していきたい。石巻に泊まって美味しい食を味わってもらうようなツアーの作成を行い、誘客を進めていきたいと考えております。</p> <p>④9月供用予定のかわまち交流センターから市内全域の観光情報発信を進めるとともに、SNS等を活用し、リアルタイムな観光情報発信を行うことで、目標達成に向け取り組んでまいります。</p> <p>⑤地域で誘客に取り組む団体等と連携し、地域資源を活用することにより、着地型観光の推進を進めてまいりたいと考えております。</p>
28	石ノ森萬画館入場者数	241,200人/年	179,546人/年	○	○	B	<p>①街づくりまんぼうの努力や考え方をもっと理解して協力体制は取れないのか。かわまちエリアの指定管理をここまで分けているので、この指標も今後一考の余地があるのではないかと。</p>	<p>①これまで街づくりまんぼうとは、萬画館実施事業において広報及びイベント開催場所の確保について協力するとともに、同社との協議を通じて、萬画館運営に必要な著作物使用の調整を図るなど、集客力向上に繋がる協力体制を敷いてまいりました。今後もより円滑に事業実施できるよう連携を深めてまいりたいと考えております。指標の見直しについては関係課と協議し検討してまいります。</p>
29	観光交流施設の来場者数	1,000,000人/年	292,790人/年	○	○	B	<p>①道路改良工事によるアクセス動線の整備を進めていくとのことだが、ぜひ近隣で生活する人たちや仕事をする人たちに声をかけて、アクセス動線の整備を進めてほしい。ちょっと手直しすればだいぶよくなるはずである。ぜひお声をかけていただきたい。</p>	<p>①道路の改良について、中央二丁目地区については、区画整理事業がまだ完結していないので、道路の形についても最終形が見えておりません。復興事業と連携しながら、より使いやすい施設や道路形態となるよう進めてまいりたいと思います。</p>
30	道の駅来場者数	1,050,000人/年	961,742人/年	○	○	B	<p>①野菜や花など、売れ残った品物は引き取ってもらっているのか。JAの産直では自分で出して回収している。売れ残れば値段や品質を見直し、良い物だけ出すようになるのではないかと。</p>	<p>①生鮮品（花含む）はすべて委託販売につき、出荷者が値引き・回収等の管理を行っています。劣化・期限切れについては会社側で時間を決めて見回り、バックヤードへの強制撤去も実施しています。（出荷者持帰り）</p>

重要業績評価指標(KPI)毎の委員評価等一覧

No.	重要業績評価指標 (KPI)	H29実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	質問・指摘事項に対する回答・対応	
			実績評価	改善点 工夫点	総合評価			
31	外国人観光客宿泊者数	1,290人/年	5,100人/年	◎	○	A	<p>①29年度と28年度を比較すると伸び率が高い。伸び率の理由について記載していること以外に何かあるか。</p> <p>②元気いちば、サンファン館、ふたごの湯など、石巻に来たときに、こういうルートで回ると石巻市内を堪能できるというパンフレットなどは用意されているのか。また、タイやフィリピンなど外国に行ったとき、現地の若い人たちはアニメが好きということを感じた。外国人の観光客に萬画館をPRするようなパンフレット作りをしてほしい。</p> <p>③実績を正確にとった上での目標設定にすべきである。数字に正確性がない以上、何で評価すべきなのか。観光に関しては、正確なデータ分析が最低限必須なのではないか。</p> <p>④民間との協力・連携を密にしてほしい。</p> <p>⑤これまでの努力が実ったのか。東北全体のトップセールスの結果等もあると思うが、どの国が多いのか。</p> <p>⑥急激にインバウンドの観光客が増えている中で、観光パンフレットが旧石巻市内中心市街地までの案内が多く、特に駅前までで切れている。石巻市の案内地図が中心部に限られているのが残念。</p>	<p>①何が影響して石巻に外国人観光客が来ているのかが把握できない状況にあります。この外国人観光客の宿泊者数の把握は、市内のホテル等宿泊業者80か所に対する宿泊者情報というアンケート調査により行っています。一昨年と昨年では昨年のほうがより多く回答が得られたことにより、実績が上がる形となりましたが、28年度もおそらく大きな違いはなかったのではないかと考えています。ただし田代島へ訪れたり、市内を歩いていたりと、感覚的には外国人が28年度に比較するとやや増えていると感じていますが、現状を掴みかねております。</p> <p>②パンフレットは、英語、韓国語、中国語（繁体・簡体）の4種類を用意しているが、内容は施設紹介にとどまっています。現在、まずは日本語版で各地域のコンテンツを組み合わせて、コースを作りながらガイドブックを作っていこうと取り組んでいるところで、市内全域を見て進めています。来年度、外国語パンフレットも整備していきたいと考えています。タイや韓国など、どこの国の方をターゲットにするかは悩みどころです。宮城オルレには、東松島市が登録しており、石巻は環境省所管のみちのく潮風トレイルに牡鹿コースが認定されています。そういったところの情報発信も行いながら、誘客していきたいと思っております。</p> <p>③宮城県観光統計調査における外国人観光客宿泊数が、目標値を達成していることから、今後数値の見直しを検討いたします。</p> <p>④本数値の集計には宿泊事業者の協力が不可欠であることから、本調査の目的を理解いただき、協力・連携を密にまいります。</p> <p>⑤本調査の内容は、日本人（地域別）・外国人のみの統計となっておりますことから、国別でのデータ把握は行っておりませんので、御理解願います。</p> <p>⑥現在、案内板等の設置箇所調査を実施しておりますことから、外国語表記や旧町部への誘客に向け、案内板のデザインや設置箇所等を検討してまいります。</p>
32	オープンデータ活用事例数 (H27年度～H31年度累計)	10例	2例	◎	○	A	意見なし	—
33	石巻テレワーク登録者数	100人	133人	◎	○	A	<p>①28年度の登録者97名のうち就労実績があるのは48名とあるが、29年度の就労実績はどのような状況か。</p> <p>②登録者数の他にどの位の数の業務があり、何人が仕事になっているのか、データを示してほしい。</p>	<p>①登録者数は増えていますが、実際に就労している方は月平均20数名となっております。</p> <p>②記事の文章チェック業務、レポートチェック業務があります。 平成30年3月末現在のデータは以下のとおりです。 就労者数 23人 売上 204,968円 平均 8,912円/人</p>

基本目標3 絆と協働の共鳴社会をつくる

No.	重要業績評価指標 (KPI)	H29実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	委員質問・指摘事項に対する回答・対応	
			実績評価	改善点工夫点	総合評価			
34	コミュニティづくり支援補助金申請件数(復興公営住宅分)(H27年度~H31年度累計)	30件	4件	○	○	B	<p>①いろいろな手を使っても、出て来ない人は出て来ないし、来る人は構わなくても来るので、あまりコミュニティと言わなくても良いのではないかと。出て来ないのに、文句ばかり言う人もいる。</p> <p>②実績は少ないが、被災者に補助金が必要になったときに制度としてあるという事は大切だと思うので、申請が少なくても残しておくべきであると思う。</p> <p>③コミュニティについては、単に補助金の申請件数から状況を把握するだけでなく、更に手を差しのべることが必要ではないのか。</p> <p>④復興公営住宅の入居者は、高齢者の一人暮らし、二人暮らしが多く、孤独死対策の観点からも団地内のコミュニティ形成は重要であり、指標値を目指して取り組んでほしい。</p>	<p>①イベントの参加の呼びかけは、来る来ないにかかわらず住民同士のコミュニケーションのきっかけづくりのためにも必要と考えております。</p> <p>②今後も申請件数にかかわらず周辺町内会とのコミュニティ形成のため、当分はこの補助制度を継続していきたいと考えております。</p> <p>③コミュニティ形成支援については、この補助金による支援だけでなく、復興住宅説明会での入居者の顔合わせや入居後のフォローを行っているほか、新市街地においては、新たな自治会設立に向けた支援を行っております。</p> <p>④復興住宅入居者の孤立防止の観点からも引き続き指標値を目標に取り組んでまいります。</p>
35	地域包括ケアサポート拠点設置件数	4か所	0か所	×	×	D	<p>①達成率0はどうか。具体的な数字では0か所なのかもしれないが、ここまで何もしていなかったわけではないと思うので、そのあたりを教えてもらえれば評価のしようがあるのかなと思う。</p> <p>②大事な事業であるので、現状打破し前進していただきたい。</p> <p>③これまで社協やNPO等をどのように位置づけていたのか。これからはNPO等の協力を借りる時代なので、積極的に取り組んでほしい。</p> <p>④構想そのものを変更すべきか。半島部より内陸部へ。</p> <p>○抽選で入ってきた人達は隣は誰なのかわからない。新しく家を建てて移り住んだ人でも、自分から出て来なければ、前に進まない。構わないでほしい人もたくさんいると思う。</p> <p>○サポートエリアの場所について、具体的に検討が進まなかったということであるが、地域コミュニティの構築・再生の必要性は認めるものの、進捗していないことは残念な結果である。</p>	<p>①0か所というのは申し訳ないが、現時点での考えについて説明させていただきます。半島沿岸部だけではなく内陸部にも人口が増えているということから、コミュニティ再生が半島沿岸部と内陸部の双方で必要となっており、数年前からそういう認識をもってあります。サポート拠点の設置という中では、建物を整備するということではありませんが、人の配置によりお金が伴うという面があるので、どれほどのニーズがあるのか、今後の見通しは立つのか、という検討を内部で行ってきました。結果的に、半島沿岸部と内陸部の双方でコミュニティづくりが重要であるという考えのもと、12の地域包括支援センターを基本とするエリア、あるいは本庁、総合支所のエリアを拠点としてサポートしていくといったことをまさに今検討しているところであります。地域包括ケアの基本構想が25年度に策定されていますが、震災後住宅の再建に伴い、人の移動など状況が大きく変わっていることから、半島沿岸部だけを強化するというのはいかがなものかといった議論もあります。</p> <p>②介護保険の観点から、現在、16の民生委員児童委員協議会の地区割を参考に同数のエリアを設定し、当該16エリア毎に地域住民が主体的に地域生活課題を解決する協議体(第2層協議体)を、平成32年度末を目標に計画的に設置していくこととしています。地域包括ケアサポート拠点の設定についても、協議体設置を勧奨して、包括的相談対応、地域生活課題解決へのサポート展開の方向を検討しています。</p> <p>③現在、公的制度以外のNPO等の取組を地域包括ケアに活かすべく、地域におけるNPO等の取組状況の現状調査を行っており、今後、可能な限りNPO等が積極的に関わられるよう各種団体との協働を進めてまいります。</p> <p>④新市街地においては、自治会に加入しない世帯もあると聞いているが、地域包括ケアの観点からは住民相互の支え合いが重要であるため、引き続き啓発活動を展開してまいります。</p>
36	市内12地域包括支援センターにおける多職種連携会議の定着率	100%	25%	○	○	B	<p>①社協の地域福祉コーディネーターはいろいろな所に行っているのだから、情報共有をしたらどうか。</p> <p>②改善点・効果を高める工夫に積極的に支援していくと書かれているが、具体的に示してほしい。</p> <p>○地域によって状況も異なるであろうが、最終年度に向け進めてほしい。</p>	<p>①各地区で開催されているエリアミーティングにおいて、社協の地域福祉コーディネーターをはじめ、地区担当の保健師や各支援団体等と情報共有を行っております。</p> <p>②地域課題の把握や解決に向けて、会議がスムーズに進行するよう、地域包括支援センターと事前協議(出席者の選定、課題の確認、進め方等)をし、地域課題の整理や効果的な対策に向けた話し合いができるよう支援しています。</p>

重要業績評価指標(KPI)毎の委員評価等一覧

No.	重要業績評価指標 (KPI)	H29実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	委員質問・指摘事項に対する回答・対応	
			実績評価	改善点 工夫点	総合評価			
37	地域包括ケア研修会延参加者数	1,000人/年	944人/年	○	○	B	<p>①地域のサロン等の小集會に出前講座することにより、普及啓発も進んでいるようであり、地域の声を拾い上げ、進めていくことを期待する。</p> <p>○出前講座で2回広瀬地区と今年は食生活改善推進委員会で話を聞き、松崎さんは前河南なので親しく聞けて良かった。</p>	<p>①今年度は、各公民館で実施されている高齢者大学の講座に組み込み、より多くの方々に「地域包括ケア」を知る機会を持ってもらえるよう設定しています。また、地域の専門職（医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護師）に講師をお願いし、市民との交流を通じて、医療や介護がより身近な問題として捉えてもらえるよう配慮しています。さらに、今年度は全市民対象の公開講座を実施予定です。</p> <p>専門職の研修会については、前年度のアンケート回答を基に、各専門職が知りたいこと、又は伝えたいことに視点を置き、課題のマッチングを通じた研修（交流）会を実施してまいります。</p>
38	石巻市シルバー人材センターの年間延べ就業人員	45,600人	43,505人	○	×	C	<p>①個人的に、今のお年寄りには自分が若いと思っている方が多く、シルバーという表現に違和感を覚えるのではないかと。また60歳でシルバーということが、適切なものか疑問である。今後、シルバー人材センターは、NPOや地域の運営も含めて重要な役割を担うことになると思う。ネーミングを見直す等の意見はお持ちか。</p> <p>②会員数の増加に繋がらない原因や理由、何か考えられる課題はあるのか。</p> <p>③高齢者が高齢者を支えるというだけではなく、子育てを支えるシルバーセンターもある。子育て広場事業の運営や一時預かり、家事サービスなど様々な活躍の場があると思う。自分にあつた場所があるとやりがいにもつながる。他地域の事業の例を参考にして様々な取組をしてもらえれば、子育ての立場でも大変助かる場所があるのでよろしくお願ひしたい。</p> <p>④シルバー人材センターについて、桃生・北上・雄勝・牡鹿の各地域におけるシルバー人材センターの登録者が増えて、それに見合う仕事量があるのか。例えば、北上の人が登録しても石巻の市街地に働きに行く、というイメージしかなかった。北上地区において人手不足の状態であり、シルバー人材センターに登録して北上地区で働くといった概念がなかったがどうなっているのか。</p> <p>⑤シルバー人材センターについて、定年が65歳に伸びていたり、社会全体の働き方が変わってきている。シルバー人材センターのように法律で決められたものと、実際の働き方というものについては別に考えていかなければならない時期に来ているのではないかと。シルバー人材センターに登録している人は少ないかもしれないが、自分で生きがいを見つけて民間で働く人が増えているとすれば、それはそれでよい傾向なのではないかと思う。</p> <p>⑥これからの高齢化社会において、年齢の設定や働き方、生きがいなど見直す時期ではないのか。法的なものが絡む分はやむをえないが。</p> <p>⑦高齢者の働くことへの生きがいを見つけられるように、PR活動を増やしてほしい。</p> <p>⑧会員数が伸び悩んでおり、これまでとは違った入会勧誘の取組を検討してほしい。</p> <p>○河南のシルバー人材センターのチラシに子守、留守番や草取りと身体の負担にならないような仕事に記載されており、頼む人がいるのかと思つたが、今はかなりの重労働ということで大変だと思つている。</p>	<p>①シルバーの名称については法的なしぼりがあるため、愛称をつけるといった違う角度から攻める必要があります。シルバー人材センターはあくまでも公益社団法人であるため、そちらと相談してまいりたいと思ひます。</p> <p>②昨年度は70名くらい入会して70名くらい退会しています。退会者数が多い理由は、シルバー人材センターといっても簡単な、楽な仕事ばかりではなく、労働環境が厳しいものもあります。そのため、楽な仕事を期待して入った人が、すぐ辞めてしまうということが原因の一つであると考えています。また、入会者数が増えない一番大きい原因として考えられることは、定年が延長され、65歳まで働くようになったことです。現在シルバーの平均年齢は70歳くらいになっており、シルバー人材センターで60歳代で働いている方が非常に少ない状況です。70歳以上でかつ、簡単な仕事ばかりではないので入会者数が増えません。さらに、つながりがないことで入会できない人もいと考えられるため、地域班を作って地区で場所を作り、懇親を図るなどしてPR活動を続けていくことにより会員の増加に取組んでいます。目につかない部分にも手が届くように、市のHPで説明会の日程の周知をするなど細かいところでも取組んでまいりたいと考えております。</p> <p>③高齢者が子育てに携わるのは非常に大切であると理解しています。他地域の取組を参考に、新たな事業ができるかシルバー人材センターと検討していきたいと思ひます。また、新しい事業として、派遣事業の実施も開始しており新しい働き方の取組も進めてまいります。</p> <p>④現在シルバー人材センターは、合併して石巻だけになっています。総合支所管内でも登録の説明会をしているが、来てもらえないのが実情であり、需要と供給のバランスについて把握できていない状態です。シルバー人材センターは仕事だけではなく、余暇を楽しむような生きがいづくりの場でもあります。担当課としては、できるだけ外に出てもらい社会参加を勧めていきたいと考えています。今後も粘り強く説明会を開催していき、需要と供給のバランスにそえるように頑張つてまいりたいと思ひます。</p> <p>⑤高齢者の捉え方も変わつて来ており、昔は60歳から高齢者でしたが、今は75歳や80歳など捉え方は様々です。今やっている制度は国・市の補助金と会員の方々のお仕事で運営しているものであり、システムはどうしても変わりませんが、考え方は変えていく時期に来ていると感じています。</p> <p>⑥時代にあつた働き方・生きがいづくりの再構築について、シルバー人材センターと協議・検討していきたいと考えております。</p> <p>⑦⑧入会勧誘及びPR活動については、昨年度よりシルバー人材センターのPR活動を担う「地域班」が活動を再開したので、班活動の継続とさらなる強化を促していきたい。また、他の入会勧誘及びPR活動について、シルバー人材センターと協議・検討していきたいと考えております。</p>

重要業績評価指標(KPI)毎の委員評価等一覧

No.	重要業績評価指標 (KPI)		H29実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	委員質問・指摘事項に対する回答・対応																																																																																																
	実績評価	改善点工夫点		総合評価																																																																																																				
39	住民主体による訪問型・通所型サービスの実施団体数	13団体	1団体	×	×	D	<p>①実績が1団体となっているが28年度と29年度は同じ団体か。</p> <p>②社協で市委託のサロン活動を行っているが、3年間だけ3万円の助成金で河南地区は大体が今年で終わってしまう。社協に今後の実施の有無について聞いているが、今のところは無いという回答であり、なんとかしてほしい。</p> <p>③補助金額が利用者1人あたり1,000円、上限50,000円というのは無理があると思う。それが実績に表れているのではないか。</p> <p>④数字の捉え方がおかしい。</p> <p>⑤地域で支え合うという考えはよいと思うが、住民主体で訪問・通所サービスを行うには、ハードルが高いのではないか。難しい問題である。</p>	<p>①28年度と29年度の1団体は同じ団体です。実績については、延べではなく実と捉えており、実施しているのが1団体しかないので1とカウントしています。</p> <p>②サロン活動助成は、平成32年度までの震災復興事業でありますことから、助成期間延長を含めた今後の事業継続や財源確保につきまして庁内で慎重に検討してまいります。</p> <p>③この事業は運営について国のガイドラインに基づき、実施サロン及び利用者に対する基準が設けられております。住民主体でこの基準をクリアできるところが現在少ないのが現状と思われます。</p> <p>④実績値については、各年度の事業実施団体数と捉えており実施団体が1団体なので、1とカウントしております。</p> <p>⑤本事業は、一般介護予防事業における住民主体の活動（サロン活動等）の発展的なものであることから、引き続き事業の周知、実施の働きかけを継続してまいります。また、次期計画においては、評価指標（KPI）を、より現状に即したものに直したいと考えております。</p>																																																																																																
40	都市公園愛護会結成数	80団体	99団体	○	○	B	<p>①都市公園愛護会の結成数が増加しているということだが、各地区における増加数を教えてほしい。</p> <p>○防集団地でコミュニティの構築・再生が進んでいないと、公園愛護会の結成につながらない。</p>	<p>①防災集団移転事業等による増加件数は雄勝地区および北上地区が多い。内訳については表のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地区別</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>増減</th> <th>(参考) H30.7.25</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>石巻</td><td>38</td><td>38</td><td>0</td><td>41</td><td></td></tr> <tr><td>湊</td><td>5</td><td>6</td><td>1</td><td>7</td><td></td></tr> <tr><td>渡波</td><td>9</td><td>11</td><td>2</td><td>10</td><td></td></tr> <tr><td>蛇田</td><td>8</td><td>9</td><td>1</td><td>10</td><td></td></tr> <tr><td>稲井</td><td>2</td><td>2</td><td>0</td><td>3</td><td></td></tr> <tr><td>茨浜</td><td>0</td><td>7</td><td>7</td><td>7</td><td></td></tr> <tr><td>本庁計</td><td>62</td><td>73</td><td>11</td><td>78</td><td></td></tr> <tr><td>河北</td><td>2</td><td>2</td><td>0</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>雄勝</td><td>7</td><td>11</td><td>4</td><td>11</td><td></td></tr> <tr><td>河南</td><td>3</td><td>3</td><td>0</td><td>3</td><td></td></tr> <tr><td>桃生</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td></tr> <tr><td>北上</td><td>0</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td><td></td></tr> <tr><td>牡鹿</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td></tr> <tr><td>総合支所計</td><td>12</td><td>26</td><td>14</td><td>26</td><td></td></tr> <tr><td>合計</td><td>74</td><td>99</td><td>25</td><td>104</td><td></td></tr> </tbody> </table>	地区別	H28	H29	増減	(参考) H30.7.25	備考	石巻	38	38	0	41		湊	5	6	1	7		渡波	9	11	2	10		蛇田	8	9	1	10		稲井	2	2	0	3		茨浜	0	7	7	7		本庁計	62	73	11	78		河北	2	2	0	2		雄勝	7	11	4	11		河南	3	3	0	3		桃生	0	0	0	0		北上	0	10	10	10		牡鹿	0	0	0	0		総合支所計	12	26	14	26		合計	74	99	25	104	
地区別	H28	H29	増減	(参考) H30.7.25	備考																																																																																																			
石巻	38	38	0	41																																																																																																				
湊	5	6	1	7																																																																																																				
渡波	9	11	2	10																																																																																																				
蛇田	8	9	1	10																																																																																																				
稲井	2	2	0	3																																																																																																				
茨浜	0	7	7	7																																																																																																				
本庁計	62	73	11	78																																																																																																				
河北	2	2	0	2																																																																																																				
雄勝	7	11	4	11																																																																																																				
河南	3	3	0	3																																																																																																				
桃生	0	0	0	0																																																																																																				
北上	0	10	10	10																																																																																																				
牡鹿	0	0	0	0																																																																																																				
総合支所計	12	26	14	26																																																																																																				
合計	74	99	25	104																																																																																																				
41	旧石巻ハリストス正教会教会堂来館者数	5,000人/年	—	×	×	D	<p>①中瀬公園の元の場所に復元することから、災害時の避難マニュアル等をきちんと策定してほしい。</p>	<p>①現在、基盤整備課で策定予定の中瀬公園避難マニュアル及び石ノ森萬画館の避難マニュアルを参考に検討してまいります。</p>																																																																																																
42	石巻市指定文化財旧観慶丸商店利用者数	10,000人/年	7,166人/年	○	○	B	<p>①インターネット上で情報提供される事が多く、なかなか早いタイミングで他の方法での入手が難しいように思える。もっとべたな方法もありかもしれない。</p> <p>○昨年度はRAFが開催され、これらを含めると18,000人が来場しており、目標値をクリアしている。今後はリピーターをどう増やすかがポイントとなるようなので、取組を見守りたい。</p>	<p>①文化交流スペースの利用方法や開催されるイベント、展示スペースでの企画展等事業については、市報やHPへの掲載、記者クラブへの取材及び周知依頼、チラシやポスターを作成して市内各所へ配付する、という方法でPRしています。今後は年間スケジュールをリーフレットに盛り込むなどの方法も取り入れていきます。文化交流スペースは平成30年度から指定管理者による管理運営となることから、民間のノウハウの発揮に期待し、利用頻度の増加に結び付けたいと考えております。</p>																																																																																																

重要業績評価指標(KPI)毎の委員評価等一覧

No.	重要業績評価指標 (KPI)	H29実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	委員質問・指摘事項に対する回答・対応																																																																																										
			実績評価	改善点 工夫点	総合評価																																																																																												
43	移住コンシェルジュを活用した本市への移住人数	5人/年 14人/年	◎	○	A	<p>①No. 43~45について、これは1つの事業かと思うが、3つに分かれるのはなぜか。</p> <p>②今までは若い人をターゲットに動いていたかと思うが、終の棲家として、石巻は気候が良く過ごしやすいところという点からアピールしても良いのかなと思う。移住の実績も伸びており、石巻もぜひこの時流に乗っていければと思う。</p> <p>③移住した人について、14人の職業は把握しているのか。</p> <p>④今の移住コンシェルジュは若い方が2人と伺っているが、将来的に、少し、そこそこの年代の方も検討していいのではないか。</p> <p>⑤市にとって必要な事業であるとする。ただ、これはもっと多くの方がこれ程の予算を投じなくても関わってできる、交付金がなくなっても継続できる事業に成長させてほしい。</p> <p>⑥今後、年齢の高いコンシェルジュをおくことで幅広い層の移住を対象にできるのではないか。</p> <p>○移住者が目標の約3倍であり、継続して成果を上げてほしい。</p>	<p>①No. 45は、全国移住ナビという全国の移住を考える方に向けたHPで、市独自のHPではありません。石巻がどれだけ露出度が高いのかバロメータを図りたいため、単独のKPIを設けています。</p> <p>No. 43と44について、No. 44は移住の相談をした人で、移住をしたいけど踏み切れない、将来的にこうなったほうがいいかなという希望を持った方を含めたものです。No. 43は、現実に移住した人をさしています。担当課としては、実際に行った人と夢をもっている人ということで分けて考えたいと思っております。</p> <p>②移住のPRがマンネリ化しないように、かついろいろな面から石巻の魅力を伝えられるように意識して取組んでいます。29年度における移住者14名のうち、年代は20代が10名、30代が4名となっています。今後の若い世代ということで我々は動いてきました。様々なところでPR活動をしています。石巻の情報がほしいという人が96名ほどいました。そのうち50代が15名で、やはり一番多いのは20代です。PRの仕方にもよるのだと思いますが、より幅広い世代の方が石巻に移住したいと思ってもらえるように、コンシェルジュとともに相談や検討をしていきたいと思っております。その中で委員の皆様には、様々な知識をご教授いただきたい。</p> <p>③移住者の職業については表のとおりです。</p> <table border="1" data-bbox="1893 737 2472 1184"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>移住月</th> <th>性別</th> <th>年代</th> <th>移住前 都道府県名</th> <th>就労状況等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>平成29年4月</td> <td>男性</td> <td>20代</td> <td>岐阜県</td> <td>IT関係に就職</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>平成29年5月</td> <td>女性</td> <td>30代</td> <td>東京都</td> <td>観光関係に就職</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>平成29年9月</td> <td>女性</td> <td>20代</td> <td>東京都</td> <td>まちづくり団体に就職</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>平成29年11月</td> <td>女性</td> <td>20代</td> <td>仙台市</td> <td>シンガーソングライター</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>平成29年12月</td> <td>男性</td> <td>20代</td> <td>山形県</td> <td>まちづくり団体に就職</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>平成29年12月</td> <td>男性</td> <td>20代</td> <td>東京都</td> <td>個人事業者へ就職</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>平成30年1月</td> <td>男性</td> <td>20代</td> <td>岐阜県</td> <td>一般企業へ就職(職種不明)</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>平成30年1月</td> <td>男性</td> <td>20代</td> <td>滋賀県</td> <td>個人事業者へ就職</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>平成30年1月</td> <td>男性</td> <td>20代</td> <td>埼玉県</td> <td>一般企業へ就職(職種不明)</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>平成30年1月</td> <td>女性</td> <td>20代</td> <td>埼玉県</td> <td>上記男性の妻</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>平成30年1月</td> <td>女性</td> <td>30代</td> <td>東京都</td> <td>就職活動</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>平成30年1月</td> <td>女性</td> <td>30代</td> <td>東京都</td> <td>就職活動</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>平成30年1月</td> <td>女性</td> <td>30代</td> <td>東京都</td> <td>個人事業者へ就職</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>平成30年2月</td> <td>男性</td> <td>20代</td> <td>千葉県</td> <td>観光関係に就職</td> </tr> </tbody> </table> <p>④現在の移住コンシェルジュは30代の男性が2名でUターン者であります。今後につきましては、50代などの年代の関係者の協力をいただきながら、各年代の相談やニーズに対応していきたいと思っております。</p> <p>⑤本事業は交付金終了後(平成33年度~)に、自立し、事業を継続する必要があるため、現在、交付金終了後の自立化に向けて、各関係団体等と連携できるように協議を進めています。</p> <p>⑥現在、30代の移住コンシェルジュ2名で、移住希望者からの多様な要望に対応しており、相談者の年齢層も20代から60代まで幅広く、今後も各年代のニーズにあった対応に努めてまいります。</p>	年度	移住月	性別	年代	移住前 都道府県名	就労状況等	H29	平成29年4月	男性	20代	岐阜県	IT関係に就職	H29	平成29年5月	女性	30代	東京都	観光関係に就職	H29	平成29年9月	女性	20代	東京都	まちづくり団体に就職	H29	平成29年11月	女性	20代	仙台市	シンガーソングライター	H29	平成29年12月	男性	20代	山形県	まちづくり団体に就職	H29	平成29年12月	男性	20代	東京都	個人事業者へ就職	H29	平成30年1月	男性	20代	岐阜県	一般企業へ就職(職種不明)	H29	平成30年1月	男性	20代	滋賀県	個人事業者へ就職	H29	平成30年1月	男性	20代	埼玉県	一般企業へ就職(職種不明)	H29	平成30年1月	女性	20代	埼玉県	上記男性の妻	H29	平成30年1月	女性	30代	東京都	就職活動	H29	平成30年1月	女性	30代	東京都	就職活動	H29	平成30年1月	女性	30代	東京都	個人事業者へ就職	H29	平成30年2月	男性	20代	千葉県	観光関係に就職
年度	移住月	性別	年代	移住前 都道府県名	就労状況等																																																																																												
H29	平成29年4月	男性	20代	岐阜県	IT関係に就職																																																																																												
H29	平成29年5月	女性	30代	東京都	観光関係に就職																																																																																												
H29	平成29年9月	女性	20代	東京都	まちづくり団体に就職																																																																																												
H29	平成29年11月	女性	20代	仙台市	シンガーソングライター																																																																																												
H29	平成29年12月	男性	20代	山形県	まちづくり団体に就職																																																																																												
H29	平成29年12月	男性	20代	東京都	個人事業者へ就職																																																																																												
H29	平成30年1月	男性	20代	岐阜県	一般企業へ就職(職種不明)																																																																																												
H29	平成30年1月	男性	20代	滋賀県	個人事業者へ就職																																																																																												
H29	平成30年1月	男性	20代	埼玉県	一般企業へ就職(職種不明)																																																																																												
H29	平成30年1月	女性	20代	埼玉県	上記男性の妻																																																																																												
H29	平成30年1月	女性	30代	東京都	就職活動																																																																																												
H29	平成30年1月	女性	30代	東京都	就職活動																																																																																												
H29	平成30年1月	女性	30代	東京都	個人事業者へ就職																																																																																												
H29	平成30年2月	男性	20代	千葉県	観光関係に就職																																																																																												

重要業績評価指標(KPI)毎の委員評価等一覧

No.	重要業績評価指標 (KPI)		H29実績		委員評価			委員質問・指摘事項等	委員質問・指摘事項に対する回答・対応
					実績評価	改善点 工夫点	総合評価		
44	移住コンシェルジュへの相談件数	20件/年	45件/年	◎	○	A	①移住コンシェルジュへの相談件数について、移住定住を進める上で、子育てのしやすさ、子育てにやさしいまちというのを第一に掲げているところもある中で、石巻はそこまでPRが進んでいないと感じているが、移住の相談の中でそういう質問はあるか。 ②コンシェルジュと情報共有を図り、関係機関等と連携して移住者が増加するよう引き続き取り組んでほしい。	①移住をしたい方は、職業や住む場所に関する質問が主なものとなっています。その他については移住をしてある程度生活が安定したら、という傾向が見受けられます。今後、PRする場において、安心して移住できるように情報提供していきたいと思えます。今後いろいろな面でご教授いただきたい。 ②移住者に関する情報は、本市と移住コンシェルジュのほか、宮城県が東京都に設置している移住相談窓口との連携を図りながら進めています。	
45	全国移住ナビローカルホームページ閲覧数	1,000件/月	620件/月	○	○	B	①HPで露出度を見ていただきたいとのことだったが、620件が高いのか低いのか基準が分からない。例えば、同規模の自治体との比較等があればいいのではないかと。全国平均の中でどのくらいというのを見せていただければと思った。 ②HPから情報を検索することがまずはじめの情報収集だと思う。インターネットが重要な発信源になることから、知恵を絞ってより閲覧者が増加するよう努めてほしい。	①今後、委員の皆様の説明の中で、比較もしながら説明してまいります。 ②実際に移住された方のレポートや移住交流のイベント案内等の掲載を行い、全国移住ナビローカルホームページの内容の充実を図ってまいります。	
46	教育旅行受入件数 (H27年度～H31年度累計)	100件/年	125件/年	○	○	B	①どのような教育旅行(目的)をまとめると、地元が考える教育旅行との違いが見えて、より有効な取組が見えるのではないかと。 ②教育旅行の受入件数が順調に伸びており、リピーターの増加につながっていけばよいと思う。	①石巻観光ボランティア協会などの教育旅行受入団体と連携し、先方の求めに応じた教育旅行メニューの開発を検討してまいります。 ②リピーターの確保とともに、石巻圏観光推進機構と連携し教育旅行商談会等へ参加し、本市の教育旅行誘致に取り組んでまいります。	
47	石巻専修大学との助成対象事業件数	7件/年	9件/年	◎	○	A	①石巻専修大学を卒業して石巻にどれくらいの方が就職しているのか。石巻専修大を卒業したが、仕事がなく東京や他県に出て行ってしまっている人はいないのか。 ○より多くの業種へとまわっていくことを期待する。 ○「石巻おでん」など異業種連携型商品開発事業の効果が期待される。	①平成30年度の卒業生261名のうち、石巻圏域の卒業生は58名(22名)おり、そのうち就職した者が52名(21名)いたが、石巻圏域に就職したのは14名(6名)であり、県内(石巻圏域を除く)には17名(7名)、県外には21名(8名)就職している。(カッコ内は女性で内数)	
48	市立高校の生徒が本市に住み続けたいと思う割合	70%	51.6%	○	○	B	①石巻管内での就職80%と高い数値ではあるが、若い人の働ける魅力ある職場がもっと増えてほしいと思う。 ②このアンケート結果をもとに、将来多くの子どもたちが本市に住み続けたいと感じるよう関係課と連携して政策形成に生かしてほしい。	①②平成29年度から実施している桜坂高校の生徒と各課の職員が、市の課題について直接話し合える取り組み(市役所プロジェクト)等を更に進めてまいりたいと思えます。	
49	市外避難者の帰郷人数 (H27～H31累計)	1,260人	1,010人	○	×	C	①県外避難者支援は、避難先での定住により完了期を迎えているとの推測である。32年度まで復興事業は続くところもあるが、防集団地の整備が完了、復興公営住宅の建設も今年度完了する。これらを踏まえて県外避難者支援を行ってほしい。 ○月日の重さだと思う。お疲れ様でした。	①復興事業が終了期を迎える中で、県外に避難した方々の帰郷の判断材料となるよう、県と連携しながら、本市の復興した姿を発信してまいります。	
50	ふるさと納税の寄附件数	30,000件/年	17,731件/年	○	○	B	①いまだ復興途上の本市としては、全国の皆さんの貴重なふるさと納税が必要なことを積極的にHP等で発信していく必要がある。 ○関心がない人が多い。	①年に3回ある特産品の入れ替え時期を含め、ホームページ等の更新回数を増やし、また、複数のポータルサイトを活用するほか、集客が多いふるさと納税PRイベントに積極的に参加しながら露出度を高めてまいります。	
51	定住自立圏共生ビジョンの策定進捗率	100%	—	×	×	D	①現在、どのような状況にあり、担当者会議の中で、2市1町の定住自立圏構想を進めるべきであるのかどうかという話し合いはなされているのか教えてほしい。 ②震災から7年、8年が経過した中で、2市1町の行政の壁を越えて取り組むことが求められており、民間やボランティア団体は連携したり意見交換をしたりといった取り組みが進んでいる中で、行政の進みが遅れている印象を受ける。 ③中断中のものがなぜここに入るのか。 ④ビジョン策定の目的が立っていないとのことであるが、復興期間も32年度までであり、市民生活にも関わるビジョンであることから、早期の協議着手を進めてほしい。 ○東松島、女川、石巻ともに復興に時間がかかりすぎており、若い人達は避難先で仕事に就き、帰って来れない状況にあると思う。でもいつか帰ってきてくれるのではないかと期待している。 ○これからの活躍を期待する。 ○関心がない人が多い。	①23年3月末に共生ビジョンを策定する予定となっていたのですが、震災によってそれがまだできていない状況にあります。現在の考えとしては、まずは2市1町ともに復旧・復興事業を確実に終わらせることとしています。ただし今はあくまでも中断であるので、その後基盤ができ、復旧復興事業に目途がついた段階で、共生ビジョンを策定するという点については変わっていません。その策定の時期については、31年度を目標にしております。 ②観光分野については、2市1町で(一社)石巻圏観光推進機構を設立し、2市1町で連携し交流人口の拡大を目指しており、分野ごとにできることを進めています。今後、観光分野以外でも協議が整った分野について2市1町の連携を進めてまいりたいと考えております。 ③平成31年度の策定を目指し、総合戦略の具体的な施策として位置づけました。本事業は、地方圏への定住促進に繋がる事業であり、2市1町で再開に向けた協議が整った時点で速やかに事業を再開したいと考えております。 ④復旧・復興を優先しながら、可能な分野から圏域市町での連携・協力に取り組み、また、共生ビジョンの策定については、平成31年度の策定を目指してまいります。	

※青字は会議終了後に追加で御提出いただいた質問・意見及びその回答となります。

基本目標 4 若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援

No.	重要業績評価指標 (KPI)	H29実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	質問・指摘事項に対する回答・対応	
			実績評価	改善点 工夫点	総合評価			
52	石巻市女性人材リスト登録者数 (H31年度末)	170人	146人	○	○	B	<p>①28年度に託児サービスを試験的に実施していきとなっていたが、行ったのか。</p> <p>②29年度講座に参加した人数は何人か。</p> <p>③若い世代の結婚・妊娠・出産・子育てを叶えるという目標に向けての一つひとつの施策になるかと思うのだが、状況が常に変わっていくからなのか違和感を覚える部分がある。 例えば、女性人材リストの登録者数が増えれば男女共同参画社会になるといった、KPIの設定の考え方について疑問である。通常、市の会議は平日の日中に行われることが多い。平日の日中に人材リストに登録することが可能な方というと、年齢的にも限られてくる。また、日中仕事をする方は登録できないので、ギャップを感じている。働く方を優先して人材リストを考えていくのか、指標が目標と違うような気がする。</p> <p>④リスト上のみで見直しになっていないか。私も登録しているが、それゆえの案内なのか、一般的な案内なのか区別がつかない。登録者の意識を上げることも必要であり、その上で様々な会議に参加していただいた方がより効果が得られるのではないのか。</p> <p>⑤人材リストに登録した人がどのように活躍しているのかわからない。マンネリ化しているのではないのか。</p> <p>⑥基本目標に対する施策に対して、この評価指標は合致しないし、違和感を覚える。そもそも人材リストが古く、活用されているのか疑問。 ○若いお母さん達は自分磨きに一生懸命である。明るい石巻にしてくれことを期待している。 ○子育てをはじめとし、女性の感性を生かした政策形成が必要で、女性の人材発掘が重要である。</p>	<p>①29年度の男女共創セミナーで、託児を実験的に設けました。しかし、風邪がはやり始めた時期で、事前に3人の申込みがありましたが、最終的に利用者は1人となりました。今年度も6回コースの人材育成セミナーを9月から始めます。夜の講座なので、託児を設けていく予定であります。</p> <p>②29年度の男女共創セミナーの受講者数は52名であります。内容としては、ストレングスコーチということで、自分にどういった強みがあるかを認識し、日常生活の中で問題や課題の解決にどのように取り組むかを考えるといった内容です。</p> <p>③総合戦略については、基本目標4つを掲げています。その基本目標の下に具体的な施策、更にその下に個別の施策をぶら下げるという構成になっています。女性人材リスト登録者数については、市の施策の女性人材リスト登録が女性の就業支援強化に当てはまるのではないかとこの考えのもとKPIに設定しました。今の総合戦略は31年度までの5年間の計画ということで、進行管理を行っているところではありますが、来年度には、次の総合戦略を策定する時期に入ってきます。具体的に検討を進めるうえで、委員の皆さんの意見をいただきながら検討してまいりたいと思います。改訂という手続きを踏めば、5年間の総合戦略の期間中にKPIの指標や構成を変更することは可能ではありますが、来年度、改定する時期なので、委員の意見も踏まえて次の総合戦略の策定に反映させていきたいと考えております。</p> <p>④女性人材リスト登録者につきましては、登録していただいている方の意識を向上させる必要性を感じており、昨年度より、男女共同参画関連の講座情報や本市で委嘱する委員のうち市民公募を行う委員会等の情報等を提供するため、メール送信を開始しました。今後とも登録者の意識向上が図れるよう検討してまいります。</p> <p>⑤女性人材リストの活用につきましては、庁内における活用の促進のために、平成29年度から登録者本人の承諾を得られた方について、庁内掲示板を活用しお名前、得意分野等最小限の情報を掲載しました。委員選定の際に活用が図られるよう、なおも周知を図ってまいります。</p> <p>⑥委員おっしゃる通り、直接的に「女性の就業支援強化」への関連は薄いと感じます。評価指標として掲載すべきか今後再考してまいります。</p>
53	「育児や家事の役割」について「夫婦同様」との回答割合 (H31年度末)	70%以上	58.9%	○	○	B	<p>①達成率が2年続けて約60%であるが、日本の社会は長い間、父親は外で仕事、母親は家庭で育児と家事という習慣で生活してきており、ある程度の長さの期間で、育児・家事の分担を浸透させていく必要がある。</p> <p>○イクメンの講演は大事だと思うが、ピンポイントに調査をすることも必要なのではないか。現在有効求人倍率は高く、女性がいろいろな形で働く方が多い状態にある。例えば、35～40歳の子育て真っ盛りの世代にしぼって、40歳で働く女性の割合やその働く女性の中でも正社員、パート社員、臨時雇用等の割合、その他に子育て中で働けない方が何%とか、そういった具体的な調査があってもいいのではないのか。「若い世代の経済的安定」といった目標、具体的施策を推進するために、具体的な調査も必要なのではないか。 ○若いお父さん達は、子育て支援センターで親子運動会やいも植え、いも掘り等も手伝ってくれ、非常に協力的だと思う。</p>	<p>①日本における男女の役割分担については、歴史的な背景からかなり昔からの習慣として生活しており、急激な社会の変化に混乱する世代はあるかと思えます。この問題も早急にすべて男女平等へと進めるということではなく、行政においても社会においても時間をかけて浸透させることが重要であると考えております。</p>

重要業績評価指標(KPI)毎の委員評価等一覧

No.	重要業績評価指標 (KPI)	H29実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	質問・指摘事項に対する回答・対応	
			実績評価	改善点 工夫点	総合評価			
54	女性のチカラを活かす企業認定数	30件	16件	○	○	B	<p>①250万円も事業費が必要な事業なのか。</p> <p>②女性も男性にとっても働きやすい環境、仕事と生活のバランスをとるためには、雇用主である企業の理解が必要であり、継続して周知活動を進めてほしい。</p> <p>③認定企業数を算出するにあたり、企業側に対して広く告知しているのか。</p> <p>○企業訪問やHPの告知で制度理解を図りながら、女性のチカラを活かす企業認定をされていると思うが、予算が意外と大きいので、どのように使われているのか。認定企業数についても、認定することが良いのか。それとも企業の一覧を作って、これから働きたいという女性に配布するなど情報発信をして、もう少し具体的に、工夫してほしい。認定企業数を増やしたいのであれば、委員会をつくってアイデアを募るなど検討してもいいのではないのか。</p>	<p>①この事業費は資料の作成上、男女共同参画推進事業全体の金額となっております。この事業自体は宮城県の認定であり、本市は女性活躍推進の観点から事業の周知を図っております。</p> <p>②本市では平成30年度に石巻市女性活躍推進会議を設置し、経済団体など関係機関と連携して、関係事業の周知や女性活躍を推進するための方策などを、協議することとしております。</p> <p>③宮城県のホームページ上で制度の詳細を掲載しておりますが、本市では県より事業のパンフレットを取り寄せ、平成29年度は商工会議所へ配布のお願いをいたしました。今後も制度内容の理解を含めて、周知を図ってまいります。</p>
55	心とからだのトータルケア参加者数	500人/年	706人/年	◎	◎	A	<p>①マタニティ講座、赤ちゃん講座の満足度が高く、アンケート結果をもとに今後も進めてほしい。</p> <p>○虐待防止等に役立つことを願っている。</p>	<p>①今後もアンケートの自由記述を参考に、子育て世代のニーズに対応できる講座内容を検討して実施してまいりたいと思います。</p>
56	親子教室・遊びの広場の参加親子数	20,000組/年	17,941組/年	○	○	B	<p>①建物も大切かもしれないが、自然の中での親子活動もあると良いと思う。</p> <p>○将来を担う子どもたちの子育てを支援するもので、事業内容については評価する。</p> <p>○石巻市の子育て支援センターはあまりボランティアとして行きたくない。なかよし、釜、渡波、河南、桃生の子育て支援センターは誰でも入りやすい空間であるように感じるが、石巻市の子育て支援センター、みなと荘は少し違う雰囲気を感じる。いろいろな支援センターに保健師、栄養士、助産師、歯科衛生士が入ってくれているのはとても良いと思う。</p>	<p>①自然の中での親子活動について、各子育て支援センターごとに芋植え・芋掘り、親子遠足、散歩を実施しています。現在は建物内活動のみの支援センターにおいても、今後検討してまいりたいと思います。</p>
57	保育施設待機児童数	0人	21人	○	○	B	<p>①兄弟で別々の保育所になってしまった人の話を聞いたので、なるべく兄弟で同じ施設で預かってもらえるようにしてほしい。</p> <p>②待機児童数は減少し、成果は出ているものの、まだ21人待機児童がいるとのことなので、早期に解消できるよう今後とも進めてほしい。</p> <p>○早く0人になってほしい。</p>	<p>①兄弟で別々の保育所にはならないように調整しているところですが、年齢ごとの受け入れ定員等の制限から、やむを得ない場合があることをご理解願います。</p> <p>②待機児童対策につきましては、今後も施設整備や保育士確保対策等を含めて引き続き対策を講じていきます。</p>

重要業績評価指標(KPI)毎の委員評価等一覧

No.	重要業績評価指標 (KPI)	H29実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	質問・指摘事項に対する回答・対応	
			実績評価	改善点 工夫点	総合評価			
58	放課後児童クラブ待機児童数	0人	87人	×	○	C	<p>①待機児童数が減ってよかった。すごく良いことだと思う。78人から21人まで減らすことは素晴らしいことであり、女性が働ける環境が整ったという評価にも繋がるので非常に良い。反対に放課後児童クラブの待機児童数が増えている。せっかく保育所に入れたのに、小学校に行ったら、放課後児童クラブに入れなくて、働きにくくなったということでは意味がないので、これら2つは連動して、取組んでいってほしい。</p> <p>②放課後児童クラブの働き手がないというのは、時給の問題もあると思う。また、午後から夕方の時間帯に働ける方がどれくらいいるのか、働くには資格は必要なのか、必要ではないのか。時給が安くて働きにくいという声を聞いたことがある。求人への工夫ということで時給の見直し等も行っていってもらえれば、解消していけるのではないかと思う。</p> <p>③保育所の整備と比べると、児童クラブの整備は断然遅れている。動きも大きくなる成長期なので、児童クラブに入れてもぎゅうぎゅうで、のびのびと遊べていない。待機児童を減らすという目的も大事だが、児童クラブを増やすという視点だけではなく、子どもの居場所を増やすという視点も必要で、児童館に準じる施設として児童室を増やししたり、公民館を活用していたりするところもあるようだ。公民館を元気シニアが使われていたりするようだが、時間的に上手く分割して使うなど、活用方法を工夫していければ良いのではないかと思う。</p> <p>④シルバー人材センターの人に、子どもの居場所作りに一役買ってもらうことはできないのか。近所の人であれば顔見知りの場合も考えられるし、世代間交流になってよいのではないか。</p> <p>⑤待機中はどのような活動をしているのか。人材不足の原因の一つにモンスターペアレントの存在はないのか。</p> <p>⑥待機児童が大幅に増加した地区が4か所あり、教育部局と連携して解消に努めてほしい。 ○元気なシニアとの共存を図る。 ○地域によって違いがあるようだが。</p>	<p>①放課後児童クラブは待機児童が増えているため、施設整備を進めています。新たな需要への解消として河北地区での整備も行うこととしています。今後も様々な手法を考えて待機児童の解消に努めてまいりたいと思います。</p> <p>②授業があるときは午後1時から6時までなので、1日5時間の勤務時間です。今指導員として働いている方は140名ほどおりますが、その半数ほどが扶養の範囲内で働きたいという希望も持っています。単価を上げると勤務時間が短くなって、更に人出が不足するという状況も発生し得ます。単価を上げて家計の手助けになるほどの収入を得られるようになれば働こうと考える人が増える可能性も考えられますが、勤務時間が午後からのため子育てから手が離れた方のほうが働きやすい環境であり、なかなか働き手がないという状況であります。</p> <p>③子どもの居場所というのはとても大切な問題であります。要件的に児童クラブに入れる子どもばかりではないので、入っていない子どもがどのように過ごしているのか、市としても考えていかなければなりません。児童館を新たに作れるかどうか問題はありますが、公民館を活用してという意見もいただいたので、子どもの居場所づくりを考えていきたいと思っています。</p> <p>④具体的内容が不明ですが、放課後児童クラブ以外の子どもの居場所づくりは、必要と考えますが、今後関係課と協議してまいりたいと思います。</p> <p>⑤待機中の児童については、様々なケースが考えられますが、学校が終わった後は帰宅して、一人で過ごしていたり、学習塾やスポ少などで過ごしているものと思われます。後段のモンスターペアレントの存在ということですが、特にそのような苦情は受けておりません。</p> <p>⑥待機児童対策については、施設整備等を含めて、対策を講じていきます。</p>
59	授業が分かったと感じている児童生徒の割合	85%	85.2%	○	○	B	<p>○アンケート結果では約8割の児童生徒が授業を理解しているようで、学習意欲が高まっているものと考えます。</p>	
60	学校が楽しいと感じている児童生徒の割合	85%	79.8%	○	○	B	<p>①楽しくないと思っている生徒の中で、不登校やいじめについては増えているのか減っているのか。</p> <p>②親がPTA活動などで学校に行くと子どもも学校が楽しいと感じると思うが。不登校の子どもをなんとかしてほしい。親なのか、子どもなのか。</p> <p>○担当の先生のお話に思わず◎である。 ○学校が楽しいと感じる児童生徒が100%に限りなく近くなれば、不登校やいじめの問題も解消に向かうのではないか。</p>	<p>①小学校は楽しいと回答する生徒の割合が増えています。中学校もやや増えています。中学校の方ほど楽しいと回答する生徒を増やすことがなかなか難しい状況です。これは全国的な問題で、思春期ということもあり気持ちをそのまま表現しなくなるという中学生の特徴でもあります。本市のいじめと不登校問題については、不登校は震災後の24年度から26年度の3年間は若干ではあるものの減ってきました。しかし、27年度からの3年間は若干上昇傾向にあります。いじめについても、26年度に国の法律が変わったことによりいじめの認知の仕方が変わったことありますが、小学校・中学校ともに件数は増えています。いじめの内容は、からかい等が多くあります。</p> <p>②「不登校を生まない予防的取組」として、日常の学習指導、生徒指導の充実や積極的な小中の連携を行っています。「不登校児童生徒への対応」は適応指導教室やサポートハウスを活用し、居場所づくりや学習支援を行っています。また、関係機関を活用し「保護者との連携」も図っております。これらの取組によって、少しずつ改善に向かう例もあり、今後も粘り強く対応していきたいと考えております。</p>
61	スクールカウンセラーの配置率	100%	100%	◎	○	A	<p>①市内すべての学校にスクールカウンセラーが配置されており、きめ細やかな対応をお願いしたい。 ○全学校にスクールカウンセラーを入れていただき感謝している。子どもだけでなく、親も相談する場所ができ喜んでいいる。 ○スクールカウンセラーは絶対学校に必要である。保護者・子どもをあたたく包む存在であってほしい。</p>	<p>①今後も全小・中学校にスクールカウンセラーを継続配置し、児童生徒、保護者及び教職員の心のケアに適切に対応していきたいと思っています。</p>